



## 大切なこと～本当の国際協力とは～

富田学園富田高等学校 1年 小澤 伸也

「NO」この言葉は僕の考えを大きく変えた。

これは4日目ホームステイで過ごした夜のこと、僕がホストファミリーに対してぶつけた質問の答えだ。研修初日から自分のイメージしていたラオスと実際のラオスの間にとっても大きなギャップを感じていた僕は思い切ってホストファミリーに質問をぶつけた。「ラオスがもっと発展してほしいですか？」と、答えは「NO」だった。すかさず理由を聞くとホストファザーは言った、「いまの平和な生活を失いたくないから」と。これまで国際協力において大切なこと、それはラオスで言うならば「ラオスの発展」でラオスの人にとっての幸せ、それは「自国の発展」だと信じて疑わなかった僕にとってこの答えは衝撃的だった。しかし、考えればいまラオスには49の民族がありそれぞれの民族にそれぞれの文化があり生活がある。今後ラオスが発展していけば生活はいまよりもっと便利になるだろう、でもその一方でそこには同時にラオスの人たちがこれまで築いてきた文化、生活が壊される可能性がある。ラオスの発展が100パーセントラオスの人の幸せに繋がるかと問われれば僕は自信を持って頷くことはできない。「発展」を意識しすぎることで、それは時に現地の人々を幸せとは反対の方向に導きかねないからだ。こう考えた時私は「NO」という現地の声の本当の意味を理解した。

そしてこの言葉は僕の考えを大きく変えた。国際協力において大切なこと、それは「協働」であるといま僕は思う。これは「発展」だけを意識することでもなければ「現地の声」だけを尊重することでもない。「発展」と「現地の声」のバランスがとれた「協働」が実現するとき私たちは本当の国際協力を行うことができるだろう。この考えが正解なのか不正解なのかはわからない。しかし僕はそう信じている。これからも「協働」の実現に向けて自分にできることをひとつずつ行なっていきたい。